



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 266

2019/03/01

今月の一枚

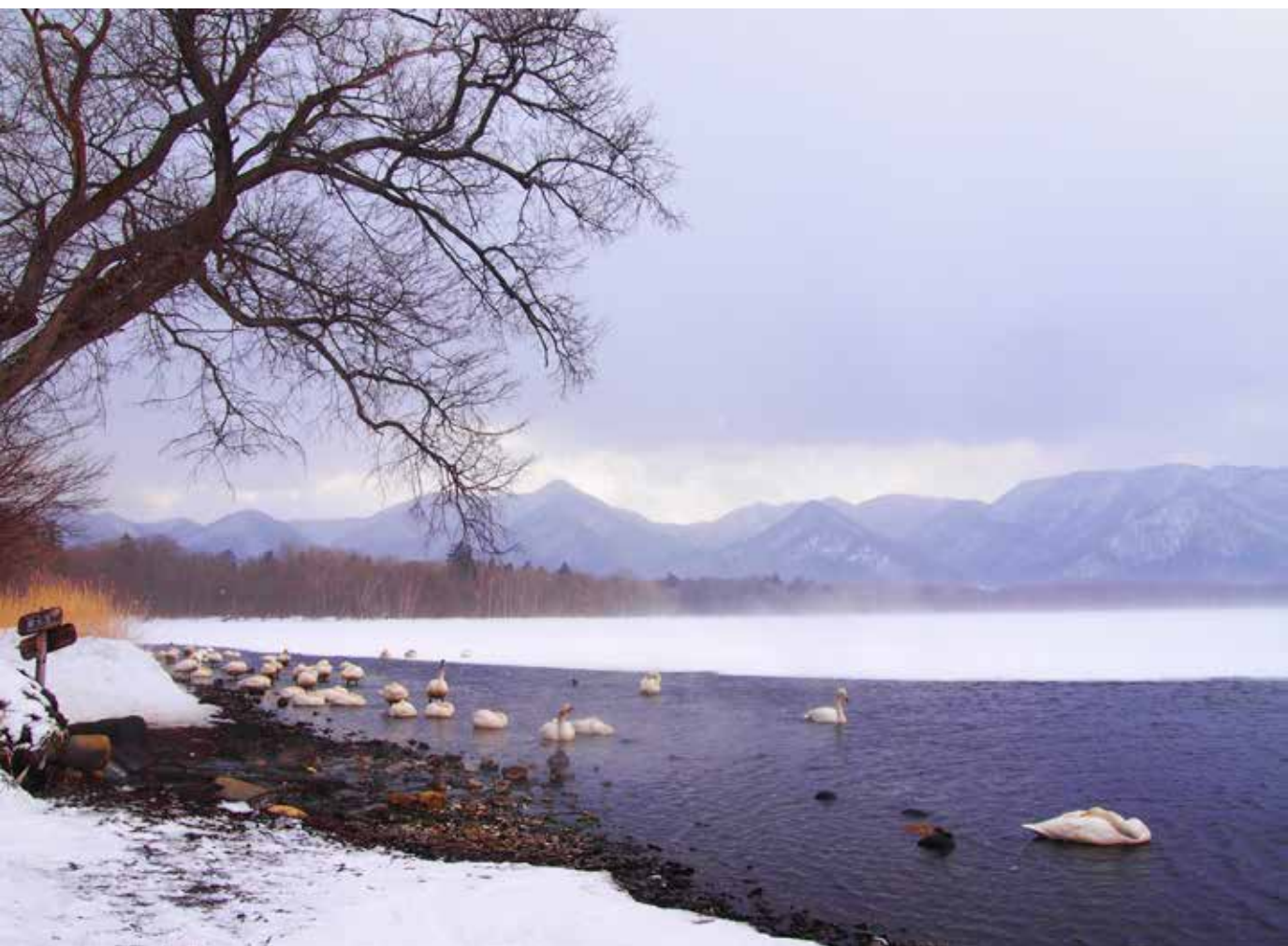
今月のイベント

参加者募集

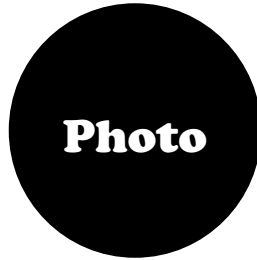
GREEN COLUMN

01. 企画展がはじまります！

02. 石炭ストーブのお話



今月の一枚



「屈斜路湖に集まるオオハクチョウ」

表紙写真・文／久保田結衣

美幌峠から望む屈斜路湖には、一部に温泉が湧き、秋から春にかけてオオハクチョウなどの水鳥が集まります。

この日は風が強く、オオハクチョウたちは首を丸め、寒さに耐えているようでした。まだ寒い日は続きます。湖で身体を温め、春までがんばってほしい！

Event. 今月のイベント

企画展「冬季作品展」～3月3日(日)

企画展「絵を描く心～岸本裕躬作品より」 3月23日(土)～10月20日(日)

ロビー展「ひなまつりとひな人形」～3月3日(日)

プチ工房「ザリガニばさみ」 3月13日(水), 15日(金)

博物館講座(総合編)「私たちのふるさと情報」 3月23日(土)

Information. 参加者募集

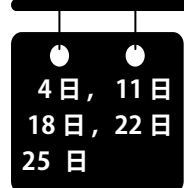
プチ工房 「ザリガニばさみ」

●3/13(水), 15(金) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(300円) ●町田善康(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

博物館講座(総合編)「私たちのふるさと情報」

●3/23(土) 10:00-12:00 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●美幌高等学校生徒, 嶋崎太郎氏(美幌博物館学芸協力員), 美幌博物館学芸員 ●申込み不要。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

企画展が はじまります！

写真・文／久保田結衣



今月の23日から、企画展「絵を描く心～岸本裕躬作品より」が開催されます。岸本作品は、独特な構図と大胆な色彩表現が組み合わさった作風の特徴があり、見ていると不思議な感覚に包まれると思います。人々の日常風景、家族の在り方、自然への移入と描く題材を変えていった岸本。企画展では、1960年代後半から2010年までの作品を公開します。

《遊戯室》1984年(写真はその一部)では、子供たちが自由気ままに遊ぶ様子が描かれています。しかし、一人一人の表情を見ていくと、笑顔を見せる子もいれば、何やら神妙な顔をしている子も…。また、画面を覆うカーブや、背景に描かれた壁の紺色と床の鮮やかな赤色の対比からは、子供ならではの様々に揺らぐ感情を表現しているようにも感じられます。ただ、楽しそうな光景を描くだけではなく、裏に潜む不

安定な面を同時に描く手法は、岸本らしい表現と言えます。

美術を鑑賞すると、これは何？なぜこの構図なんだろう？なぜこの色が使われているのだろう？…などの疑問がたくさん出てくると思います。しかし、浮かび上がった疑問は、鑑賞を楽しむための要素になります。

今回の企画展では、鑑賞のヒントを提供し、モチーフから何が想像できるか、楽しんでいただくための工夫をしています。ぜひ足を運んで、芸術の面白さを感じていただけると幸いです。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

石炭ストーブの お話

写真・文／八重柏誠



先日、過去数十年で1番と言われ
れるほどの寒波に見舞われ、
美幌でも2月9日にマイナス27.9℃
を記録するほどでした。このような厳
しい寒さの中でも、私たちが快適に暮
らしていけるのは、様々な暖房器具が
発達してきたからではないでしょ
うか。その代表選手がストーブです
ね。

日本で初めてストーブが作られたの
は安政3（1856）年のことで、箱館
奉行所の役人が入港中のイギリス船
の中で使っていた石炭ストーブをスケ
ッチし、鋳物職人に作らせたのが始
まりと言われています。ストーブは
寒冷な北海道に適した暖房器具で
した。大正時代以降、燃料となる石
炭が安定的に供給されるようにな
り、石炭ストーブが一般家庭にも
普及していくようになります。

さて、美幌博物館の収蔵庫を覗い
てみると、球形のデザインをした素
敵な

石炭ストーブが収蔵されています。国
鉄時代の客車などで使われたもので、
「ダルマストーブ」や「タコストーブ」、
「地球型ストーブ」などと呼ばれ親
しまれたものです。写真の資料は球
形の頭に3本の爪があります。これ
は湯茶を沸かすためにつけられた
ものでしたが、汽車の乗客が餅や干
物を焼いて車内を汚すことから、
それを防ぐために爪のないダルマ
ストーブもあるそうです。

汽車で使われた石炭ストーブは、蒸
気暖房の普及により、昭和40年代
を境に姿を消していきました。一
方、家庭で使われるストーブも、
燃料の補給や掃除が容易な石油
ストーブに取って代わられてい
きました。現在は、石油ストーブ
の他にガスや電気ストーブ、暖
房エアコンなど、様々な暖房器
具が登場しています。皆様のご家
庭では、どのような暖房器具を
お使いですか？

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



過去最強と言われた大寒波の朝、せつかなので朝の散歩を楽しみました。風もなく気持ちの良い青空がひろがる穏やかな朝は、あまりに気温が低いので、寒いというよりも痛いという表現がぴったりとくるような印象でした。(八重栢)